

むつごろう通信

12号

2007年

11月1日発行

着任のご挨拶

沿岸域社会計画分野

五明 美智男客員教授



4月1日付けで沿岸域環境科学教育研究センター客員教授に就任いたしました。東京水産大学で漁場造成の勉強をした後、海洋・港湾工事を得意とする建設会社の研究所で、内湾の水底質環境や環境関連の施工法、港湾・海岸の構造物や被災などの技術開発研究をしてきました。この度有明海をフィールドとする研究機会をいただき、有明海の干潟スケールの大きさをしっかりと受け止めて初心にかえり、フィールドを見て感じることから一歩ずつ進めていきたいと考えています。企業の技術開発現場の視点で、大学や地域の皆さんと関わることで、より実践的な研究ができればと思っています。

振り返れば、天草で港湾工事に携わった昭和と平成の移り変わりの頃、熊本から天草へ向かう有明海沿いの道路護岸上に、お土産のアサリを売る地元の方たちを多く見かけたことを思い出します。パラベットの向こう側に興味を持ちながらも現場の仕事に没頭してしまい、泥まみれにならずに過ごした当時を反省しつつ、大いに干潟を歩き回る予定です。よろしくお願いいたします。

村野 昭人客員准教授



はじめまして。4月1日付けで沿岸域環境科学教育研究センター客員准教授に就任いたしました。2002年に大阪大学大学院 工学研究科環境工学専攻において学位取得後、国土技術政策総合研究所の任期付研究官、東洋大学地域産業共生研究センターの研究助手を経て、現在は東洋大学の特任講師をしております。これまで、ライフサイクルアセスメントを用いて、都心地域を対象とした環境負荷発生量の分析、運輸部門を中心とした港湾施設の環境負荷発生量の分析、解体廃木材・コンクリート廃材を対象とした再資源化技術の評価、企業における資源循環に伴う環境負荷削減効果の評価などをテーマに研究を行ってきました。

当センターでは、沿岸地域における窒素や炭素などの物質収支を調査することを通じて、陸域の活動が有明海の水質・底質に与える影響を分析する研究を予定しています。海のことについては全くの素人なのですが、陸域と海をつなぐことで、地域における環境改善手法の検討に結び付けたいと考えています。よろしくお願いいたします。